

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の分析【第3学年(第9学年)】

(様式4)

北区立堀船中学校

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
都からは3ポイント、全国からは0.3ポイント平均点を下回る結果となった。設問別に見ると、「文脈に即した漢字変換」や「根拠を明確にして書くこと」、「登場人物の設定をとらえること」などが、都平均を大きく下回ってる。「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」については、都平均を10.3ポイント上回った。問題形式では、都や全国と同様に、記述式において正答率が18.9%～32.1となっており、苦手とする傾向が見られた。	漢字については文脈の中で捉えるようにし、多角的な意味に触れつつも、文脈に沿う意味を理解できるよう、辞書を活用して本文においてふさわしい意味を探すようにする。文学的文章、説明的文章ともに、文章読解では、全体の構成から、事実として言えることを整理し、因果関係を確認するなどして文意を理解できるようにする。意見文の学習では、根拠に基づく意見を述べる練習に取り組み、読解力の向上にもつなげていきたい。	基礎力向上のため、小学校中学年程度の漢字から書き取りを中心とした学習に取り組む。合わせて、辞書を活用して文脈に沿った意味についても理解を深めていく。新出漢字については文脈に沿った形で理解できるようにする。「読む」技能を高めるため、要約に取り組みながら、描写一つ一つの働きを確認する。「書く」技能を高めるため、単元のまとめでは感想や課題作文に取り組み、添削を通して具体例に基づく根拠ある文章を身に付けられるようにする。

数学

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
平均正答率は全国を4.7ポイント上回り、都と同じ53%という結果となった。設問別に見ると、図形の証明問題において都や全国と同様に正答率が低くなっている。また、運賃計算や度数分布表を読み解く問題においても正答率が低くなっているものがあり、データの読み取りや応用に課題がある。数学的に証明するための方法について学びを深め、論理的思考力を高めていく必要がある。	関数や図形分野における証明問題の正答率が低くなっていることから、引き続き基本的な計算スキルを基盤としつつも、論理的な思考ができるようにするため、数学的に問題を解決し、説明をしていくための手順の習得に努める。また、関数については、グラフと式の関係を視覚的にとらえることができるよう、グラフや表を使った問題解決学習に取り組んでいく。	関数の基本的な概念について、視覚的に理解することができるよう、グラフの描画や増加量の計算を扱う際には、ICTツールを活用して、生徒がリアルタイムでグラフを操作しながら、学びを深める環境を整える。また、グループ活動を取り入れ、問題を共有し、異なる解法を発表し合うことにより、考え方の幅を広げ、数学的思考力を高める。また、図形の証明についても視覚教材を活用し、図形の性質や証明の流れを体感的に理解できるようにしていく。

理科

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
22の設問のうち、都・全国平均を上回ったのは2問となっている。観点別では、知識・技能を評価する問題において、都平均を大きく下回るものが多くあった。無回答の割合が高いものに、「身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題設定」「元素を記号で表すことに関する知識」がある一方で、無回答の割合が小さい設問は正答率が高い傾向にあることから、記述に自信をもつことができず、難しい問題には取り組まない傾向があると考えられる。	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することが必要である。受動的な授業から、能動的な授業へと質的変換を図り、興味関心をもち、自発的に取り組む授業のデザインを進める。知識の定着が不十分であることから、小単位ごとに細かくゴールを設定し、身に付けた知識を試す場面を数多く用意することで、達成感を高められるようにする。	平素から、身近な事象との関わりを意識する授業を目指す。実験に取り組む中で、問題意識をもち、解決すべき事象を明確にしていくことで、意識改善を図る。また、話し合い活動を積極的に取り入れ、意見交換しながらまとめを進めることで言語化することをルーティン化する。自分の言葉で文章化することにより、意見の表出を積極的に促す。知識事項の定着にも問題があるため、小テストを行うなど、振り返る機会を短いスパンで設けていく。